

## Ursula and Fritz Melchers Travel Award を受賞して

氏名	高見 大地	
所属	京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 免疫制御学分野	
発表論文 タイトル	Role of local IL-7 in maintenance of lung ILC2s	

この度はこのような参加記を各機会をいただき誠にありがとうございます。 Ursula and Fritz Melchers Travel Awardのような素晴らしい賞を頂戴し大変光栄に思います。まずはこのような賞の援助者である Melchers ご夫妻に深く感謝いたします。また、渡邊武先生、烏山一先生、免疫学会選考委員会の皆様、事務局の方々には大変お世話になりました。また、日頃よりお世話になっている生田宏一先生をはじめ、研究に携わっていたいた方々にも感謝いたします。

我々は肺の IL-7 が ILC2 に与える影響に関して研究をしております。ILC2 は肺に存在し、IL-7 レセプターを表面に高発現しますが、肺のローカルな IL-7 が ILC2 にどのように影響しているかは明らかになっていません。我々が作製した肺特異的な IL-7cKO マウスの解析によって、定常時には肺上皮細胞由来の IL-7 によって ILC2 が維持され、喘息後には肺のリンパ管内皮細胞由来の IL-7 によって ILC2 が維持されていることを見出しました。まだ、研究途上ではありますが、IL-7 の ILC2 活性化機能についても着手しています。この研究を広げ、ILC2 に対する肺の IL-7 の重要性を明らかにしていきたいと考えております。

今回の免疫学会では、Melchers ご夫妻、渡邊武先生、烏山一先生との Luncheon に参加させていただきましたが、Fritz Melchers 先生からご自身の研究の話や、これからの免疫学に関しての話をいただき、非常に有意義であり、また、他の受賞者の方々の研究に関する内容もお聞きすることができ、研究に対するモチベーションが高まるとてもいい機会となりました。私個人といたしましては、口頭発表を含め、英語のみでディスカッションすることはめったにない機会でしたので、とても有意義な3日間となりました。

印象に残っているプログラムは本庶先生と柁島先生のご講演です。私が話すのも恐縮ではございますが、本庶先生のご講演は、PD-1 の発見の歴史から今後の研究までを非常に論理的に展開されており、ノーベル賞を受賞なされた方からお話を聞ける非常に恵まれた機会でした。柁島先生のご講演は、何よりも学生時代のハードな研究生活のエピソードが印象深く残っており、私自身ももっと研究に対して努力しなければならないと感じました。

最後になりましたが、Melchers ご夫妻をはじめ、免疫学会関係者の皆様、ご指導いただいている生田先生に改めてお礼申し上げます。